武蔵・大泉・大島海洋国際
「本気で勝ちにいく連合チーム」

3チーム計16人のチャレンジ　ポジション争いが選手を強くする

武蔵・大泉・大島海洋国際
連合チーム

今夏大会後に結成された連合チーム。3校合わせた人数は16人。秋大会予選のほか、春大会予選もこのチームで挑む可能性が高い。新入生が加わる夏は、単独チームでの出場を目指す。

武蔵・大泉・大島海洋国際の都立３チームがこの秋から連合チームを結成した。『本気で勝ちにいく連合チーム』としてスタートを切った新チームを取材した。（取材・石黒登）

連合チームとして再スタート

3年生8人、2年生2人、1年生5人の、合わせて15人で挑んだ今年の夏大会。初戦となった2回戦で9-7と羽村に競り勝ったものの、続く3回戦・多摩大聖ヶ丘に0-1で敗れ、武蔵の夏は終わった。

「人数が少なくベンチも埋まらない状況の中、2回戦で2倍くらい部員がいる高校に勝てたことは自信になった。それだけに0-1で負けた3回戦が本当に悔しくて……。あの試合は練習でやっていたカバーリングが一つ抜けてしまって、それが決勝点につながってしまった。一つのプレーの重要性を強く考えさせられた」（武蔵・河井知也監督）

3年生が引退し、残った部員は7人。夏大会後、時を置かずして大泉・齋藤恭兵監督から電話を受けた。内容は武蔵、大泉、大島海洋国際による合同チームの誘い。もともと合同練習や練習試合をする間柄だったこともあって、話はすぐに決まり3校連合チームとして新たなスタートを切ることとなった。

3校合わせて選手は16人。監督にとっても選手にとっても、連合チームの経験は初めて。集まれる時間も限られるが、そんな中でも「いろいろと声を掛け合いながら、最後は一つのチームになれたら」と河井監督は言う。

本気で勝ちにいく連合チーム

今回の連合チームを通じて、河井監督が期待していることが二つある。一つは様々な野球観を持った選手、指導者と練習を共にすることで「野球に対する視野を広げてほしい」ということ。そしてもう一つが「選手たちの競い合いの心」だ。

「このチームの選手は普段、ポジション争いをした経験がない。当たり前のことだが、相手校は熾烈なスタメン争いを勝ち上がってきた選手が試合に出てくる。だからこそ今回はそういった部分で刺激を起こしたいと思っている」と河井監督。

その想いはスローガンである『本気で勝ちにいく連合チーム』にも込められている。本気で勝ちにいくために、常に練習から本気で挑み、時には厳しい言葉も掛け合いながら、競争意識を持ってプレーする。そしてその経験は選手が各々の高校に戻った後も、貴重な財産となるはずだ。

各学校の選手たちは時間を惜しむように合同練習に励んでいる。思い出作りではなく、本気で勝ちにいく連合チーム。この経験は、夏へとつながっていく。

スローガン
「本気で勝ちにいく連合チーム。本大会出場を目指す！」

3校合わせて16人、集まって練習する時間も限られるが、そういった中でも大会出場を思い出作りで終わらせる気はない。「本気で勝ちにいく。仲良しというよりは本当に厳しく声をかけあっていこうと。目標は本大会出場」と河井監督。

都立武蔵・河井知也監督
この経験を夏につなげてほしい

「人数が少ない中、本当に一生懸命やっている子供たちなので、なんとか勝たせてやりたいという気持ちがある。でもそれと同時に今回がゴールじゃない。来年の夏は多分、それぞれの高校で甲子園を目指すことになると思う。その時のために技術や精神面、練習メニューなどを吸収して、この合同チームでの経験を活かして次につなげていく。自分の高校でさらに上を目指していくための第一歩にしてほしい」

中央大杉並ー中央大　神代高で4年間監督を務めたあと、2013年春に都立武蔵に異動し、2013年秋に監督就任。今年で4年目。